

世界初演の演奏会

志村良知

3月23日、ピアノ協奏曲の世界初演を聴いた。

作曲は池辺晋一郎、ピアノと指揮は反田恭平、オーケストラは反田の手兵ジャパン・ナショナル・オーケストラ（以下JNO）。

楽曲はピアノ協奏曲Ⅳ（30分くらいの三部構成）。反田自身の、編成が小さくても演奏できて、長すぎず、あんまり前衛的でないピアノ協奏曲という注文で、反田がピアノを弾きながらJNOを指揮するために作られた。

ピアノ協奏曲の世界初演を聴く機会はもうなかるうと、かなり以前に予約したS席ど真ん中。数列前に作曲家自身がいた。満席のみなとみらい大ホールはご婦人が圧倒的。反田は若い結婚して子供もいる。しかしその妻は小林愛実、大谷翔平の妻と同じで「懂れるのはやめましょう」なのか。

オーケストラは約40名の二管編成（ホルンのみ4）。それに木琴と鉄琴持ち替え、バスドラムが加わる。『風が語ったこと』という副題がある曲は「あまり前衛的でなく」、素人が聴いていても緊張感の中に心地よい風を感じる。反田の繊細なピアノ、息の合った美しい音色で応えるオーケストラ、それを要所で木琴・鉄琴とバスドラムが加わった打楽器が盛り上げる。

終わって、反田の招きで舞台挨拶に立った池辺にも大拍手と喝采、その表情から作曲家としての満足感がうかがえる。大活躍の打楽器奏者には作曲家からも称賛の指名。

池辺がリクエストしてピアノソロのアンコールは、父親となった反田の、ただため息の『トロイメライ』。

2曲目、ピアノは片付けてブラームスの交響曲1番。予習として聞いておいた大家の悠揚迫らざる演奏に比べ陰陽のメリハリが大きく、弱音部でのうねりが豊かで繊細。いかにも若きピアノリスト、という指揮。全員若いが手練れのJNOは音色もアンサンブルも完璧、強奏の部分ではティンパニに支えられて弦も管も美しく響かせる。今迄聞いたことが無い新しいブラームス。終わって多くの観衆のスタンディング・オベーションは当然だった。

（文中敬称略）